

DIGITALMASTER L-758D/L-758C

デジタル撮影は、ここから始まる。



L-758D
DIGITALMASTER

L-758D 希望小売価格 (税込み) 73,500円
本体価格 70,000円
消費税 3,500円

世界初、「露出プロファイル」と新機能「ゼロ目スケール」でデジタルカメラ対応。
DIGITALMASTER L-758D/L-758C 誕生。

世界初、露出プロファイル機能搭載

デジタル一眼レフのセンサーや回路特性、銀塩カメラのフィルム特性に起因する露出の誤差や、露光域、ラチチュードの情報を、PCを経由してデジタルマスターL-758シリーズに露出プロファイルとして設定することができます。
露出プロファイルを使用して、デジタルマスターL-758シリーズとカメラをキャリブレーションすることにより、露光域に対する露出値の補正など、カメラの性能を最大限に引き出すことができます。

瞬時に情報を確認。ゼロ目スケールを新採用

デジタルマスターL-758シリーズで新採用された「ゼロ目スケール」ゼロ目スケールを使用すれば、デジタルマスターL-758シリーズで測定した測定値を0を起点とした±7EVでの表示、確認をすることができます。
測定値が、0を起点とする中間露出値から±何絞り分になるかが一目で確認できるだけでなく、露出プロファイルを使用してキャリブレーションされたカメラの露光域の表示、確認もできます。

ミッドトーンボタンの新採用

標準露出値(入射光の値や、反射光の18%グレーの値)をミッドトーン(中間値)として設定(メモリー)し、スポットでハイライト/シャドウを測定・メモリーすることにより、被写体が露光域に入っているか確認調整ができます。

露光域は、露出計が教えてくれる。

デジタルカメラや銀塩フィルムには被写体の明るさに対して、画像として取り込める範囲が決まっています。この取り込める範囲を露光域(再現領域、許容範囲)と呼び、撮像素子や周辺回路、フィルム特性によって、それぞれの露光域は一定ではありません。
デジタルマスターL-758シリーズはテスト撮影から露光域のデータを取得し、露出プロファイルとしてデジタルマスターL-758シリーズとキャリブレーションすることによって最大3台までの露光域のデータを保持することができます。
保持されたデータは露光域に対する測定値の表示や警告、撮影条件によるカメラと露出計の表示差を補正した標準露出値の表示、設定された露光値に対して補正した適正露出値の表示することができます。

露出プロファイルの優位性



露出プロファイル機能の無い露出計で測定後、撮影。ハイライト部分が犠牲になり、とんでしまっている。作例のような、輝度差の大きな撮影条件では、正確にラチチュードを把握していないとハイライトやシャドウが思い通りに再現できない。



デジタルマスターL-758Dの露出プロファイル機能を使って測定。ラチチュード警告表示が表示されたので手前から補助光として、ストロボを使いデジタルマスターL-758Dで測定し、ラチチュード内になるようにライティングして撮影。ハイライトからシャドウまできちんと再現されている。

露出キャリブレーションの流れ



露出プロファイルターゲットを使ったテスト撮影

普段、お使いのカメラ、レンズ、照明機材を使用して一定の条件下でグレーチャートで±7EVの範囲でテスト撮影します。弊社別売の露出プロファイルターゲットを使用すると便利です。その際、カメラの露出データ、露出計の入射/反射測光のデータを記録しておきます。

撮影データの分析

撮影したデータを元に、市販の画像処理ソフトを使って表示補正值(標準露出値)、許容範囲(-)、再現領域(-)、再現領域(+),許容範囲(+),の5種類の設定データを取得します。標準露出値以外のデータに関しては規定レベル値を元に標準露出値からの差を求めます。

テスト結果の入力、露出プロファイルの作成

同梱されているアプリケーション、Data Transfer Softwareに、分析結果より得られた各設定値を入力、露出プロファイルを作成します。
※Data Transfer Softwareを使用せず、デジタルマスターL-758シリーズ単体でも露出プロファイルの作成は可能です。詳しくは製品マニュアルをご覧ください。

露出計へ露出プロファイルを転送

Data Transfer SoftwareがインストールされているPCと露出計を同梱のUSBケーブルを使って接続。Data Transfer Software上から露出計に作成した露出プロファイルを転送すれば完了です。

世界初、露出プロフィール機能搭載。デジタルカメラへ対応した露出計の新基準 DIGITALMASTER L-758 シリーズ

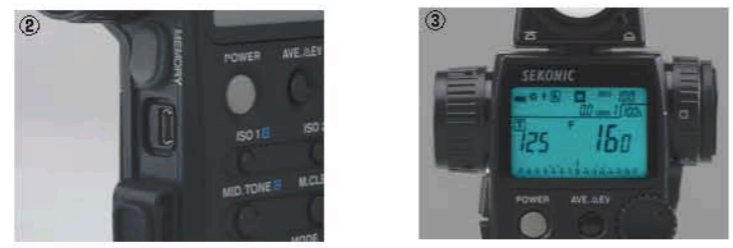


L-758D 希望小売価格 (税込み) 73,500円
 本体価格 70,000円
 消費税 3,500円

デジタルマスターL-758シリーズは世界初となる画期的な『露出プロフィール』機能を搭載。カメラの露出とキャリブレーションすることによってデジタルカメラの露光域を記憶、表示することのできるデジタルカメラへ対応した露出計です。デジタルカメラ対応の新機能だけではなく、スポット測定や分離測光システムなど従来機からの機能もすべて継承し、デジタルは撮影を含めた、あらゆる撮影シーンで高度な測定精度と柔軟な対応を実現します。

露出プロフィールを始めとした新機能&充実した各種測定機能・特徴

- デジタルカメラの露出プロフィールの設定**
露出プロフィールの設定は3台までのデジタルカメラのデータを入力することができます。デジタルカメラの露出プロフィールを設定することによって、測光時に設定されたデジタルカメラの露出プロフィールを参照し、ラチチュードの警告を表示することができます。また、入力されたデジタルカメラ露光域の露光域だけではなく、再現領域の設定、表示することもできます。
- Data Transfer Software (標準付属品)**
露出計本体にUSBポートを装備。露出計とPCをUSBケーブルで接続し、専用アプリケーションData Transfer Softwareを使ってデータ通信を行うことができます。Data Transfer Softwareは各デジタルカメラのデータの入力、管理を行うことができます。
- ゼロ目スケールを採用したミッドトーンの設定**
- より暗い場所でのスポット(1°)測定が可能**
- 絞り・シャッター速度の1、1/2、または1/3ステップの設定が可能**
- 分離測光システム**
- 両優先モードで9点までの測定値のメモリーとメモリー表示が可能**
シャッター速度優先モード、絞り優先モード、どちらのモードでも測定値を9点までメモリーし、表示することができます。メモリー値はスケール上に表示されますので測光ポイントの明暗差を一目で確認することができます。
- レンズ前にフィルター装着が可能**
ステップアップリング(別売)を利用すれば撮影時にカメラへ装着するフィルターを取り付けた状態で測光することができ、フィルター装着による補正値を計算することなく露出決定することができます。
- カスタムセッティング機能**
利用用途に合わせて機能を選択することができます。



主な機能

- 3つのカメラの露出プロフィールの設定
- Data Transfer Software (標準付属品)
- ゼロ目スケール
- 分割測光
- シャッター速度と絞り値が1、1/2または1/3ステップで設定可能
- 測定ボタンとメモリーボタンの切替可能
- メモリー機能(9点)
- アベレージ機能
- 積算機能
- シャッター速度優先
- 絞り優先
- EV値
- 生活防水
- 液晶バックライト自動点灯
- 光玉・平板機能兼用
- 入射、反射別々の露出補正
- 2種類のISO感度設定
- 自動電源OFF機能
- 電池容量表示
- シネ駒数設定
- 三脚用ネジ穴
- 視度補正
- ダイヤルロック

L-758CINEは、上記のL-758Dの機能に下記の機能を加えています。

- 簡易照度測定(ルクス、フットキャンドル)
- 簡易輝度測定(フートランパート、キャンドル/平方メートル)
- 広範囲なシネ駒数
- シャッター開角度設定
- 映画撮影用フィルター設定



L-758CINEの特長

- 1/3ステップでのドット表示**
F0.5~F64までのアナログスケール上で1/3ステップの細かい表示が可能。
- 広範囲なシネコマ数の設定**
1コマ~1000コマまで39段階での設定が可能。コマ撮りから高速撮影まで広く対応します。
- 映画撮影用のフィルターに応じた測定値の表示が可能**
使用頻度の高い7種類(コダック社製ラッテンフィルター)に対応した設定が可能。補正値の計算をすることなく露出を決定できます。
- シャッター開角度に応じた設定が可能**
シャッター開角度(1°~10°まで1°間隔、5°~270°まで5°間隔、プラス12°、17°、22°)に応じた測定値を表示が可能。メタルハライドランプ(HMI)のフリッカーに対応する144°、172°の設定も可能です。
- 照度・輝度測定が可能**
ルクス(Lx)、フットキャンドル(FC)、キャンドル/平方メートル(cd/㎡)、フートランパート(FL)の測定が可能です。

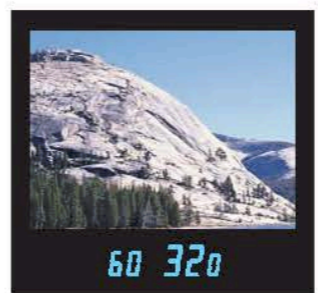
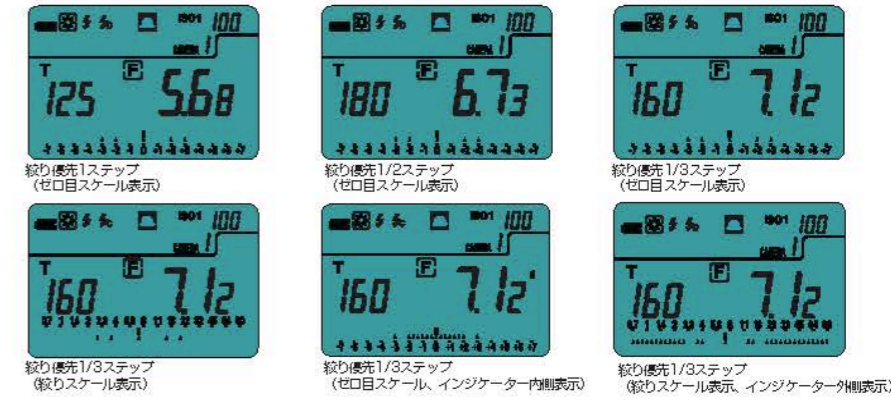
L-758CINE 希望小売価格 (税込み) 91,350円
 本体価格 87,000円
 消費税 4,350円

露出プロフィール機能



幅広くデジタル撮影に対応

ゼロ目スケールを含め右記のように撮影スタイルや状況に合わせて液晶表示を選べます。



より暗い場所でのスポット(1°)が測定可能

デジタルマスターL-758シリーズは1°でのスポット測光機能を搭載。定常光でEV1、フラッシュ光でF2.0という低照度状況下でのスポット測光が可能です。また入・反射の切り替えもワンタッチですので被写体にあった測定方法を素早く切り替えることが可能です。

分離測光システム

1度の測光で全光量に対するフラッシュ光の割合が10%ステップで細かく見ることが可能です。アナログスケール上でもフラッシュ光、定常光、全光量の測定値が表示され、作画意図に合わせてフラッシュ光と定常光の割合を調整することが可能です。



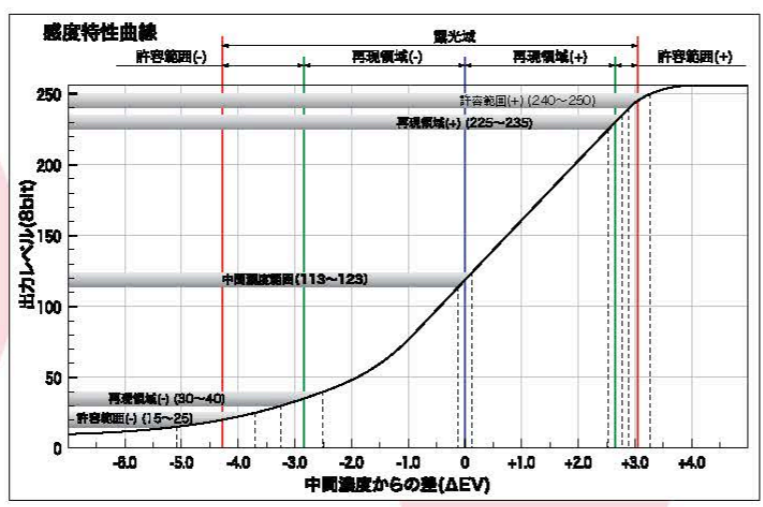
Data Transfer Software

Digital Camera Exposure Profiling



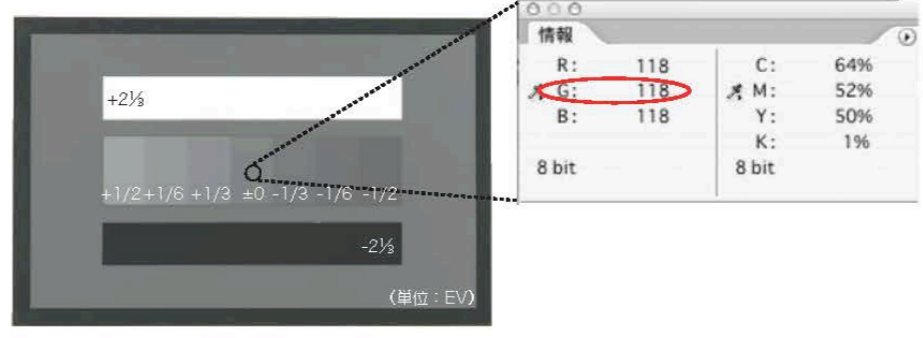
さまざまな要因で露光域は異なる

デジタルカメラの露光域は受光素子や周辺回路などのハードウェア的な要因や、保存形式などの設定など、さまざまな要因で変化します。露光域とは標準露出値を中心に再現領域の(+)と(-)、許容範囲の(+)と(-)を足したもので、一般的には右の図のような特性をもっています。デジタルマスターL-758シリーズは、テスト撮影をすることで個々のデジタルカメラの再現領域と許容範囲を解析。再現領域、許容範囲に対する補正值と表示補正值を特定し、専用開発されたアプリケーション、Data Transfer Softwareを使ってプロファイル化。デジタルマスターL-758シリーズに記憶させることで、露出の測定時に測定値に対して、デジタルカメラの露光域がどうなっているのかを一目で把握でき、デジタルカメラの性能を最大限に発揮させることができます。



撮影したデータから指示補正值&許容範囲、再現領域を求める

標準露出値で撮影した露出プロファイルターゲットのデータを画像情報の表示ができる、市販の画像処理ソフトへ読み込ませ、レベル値が118±2となる指示補正值を求めます。撮影した±7EV分のデータから、右の表のレベル値を参考に許容範囲、再現領域を求めます。

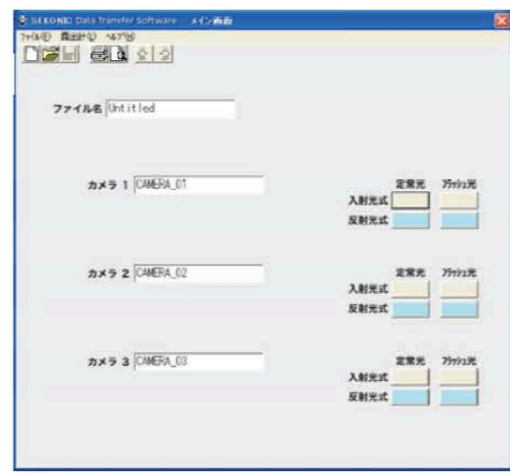


	レベル値	範囲
許容範囲 (-)	20	15~25
再現領域 (-)	35	30~40
標準露出値	118	113~123
再現領域 (+)	230	225~235
許容範囲 (+)	245	240~250

※許容範囲、再現領域の設定値につきましては表現、画像再現性の考え方、認識の違いにより、一概に基準が決まっているものではありません。上記の表はあくまでも弊社にて使用している値であることをご了承ください。

Data Transfer Software

Data Transfer Softwareはグレーチャートを元に求められた指示補正值、許容範囲、再現領域の各設定値をPCで入力、露出計への転送、露出計の設定値を吸上げて保存など各補正值の入力を支援するためのアプリケーションソフトです。入力項目はカメラの選択 (CAMERA 1、CAMERA 2、CAMERA 3)、光源の種類 (定常光、フラッシュ光)、測定方式 (入射光式、反射光式) ISO (ISO3~ISO8000)、設定内容 (指示補正值、許容範囲 (-)、再現領域 (-)、再現領域 (+)、許容範囲 (+)) となっており、合わせて2040項目になります。



初期入力画面



補正值を直接入力

補正值算出

Data Transfer Softwareへ設定値を入力

求められた指示補正值、許容範囲、再現領域をData Transfer Softwareへ入力します。入力は補正值を直接入力できる (単位はEV) 他、ポイントとなる露出プロファイルターゲットを撮影した時の露出計のシャッタースピードと絞り値、カメラの表示したシャッタースピードと絞り値を入力するだけで、補正值を算出、自動入力する「補正值算出」という方法があります。また、2つのISOの感度差を元にすべての設定値を自動計算する機能も備えています。



露光域が狭いカメラ



露光域が中間のカメラ



露光域が広いカメラ



露出プロファイルターゲットを使ってテスト撮影

普段、使用しているデジタルカメラ、レンズ、光源を使用して普段通りのカメラ設定で露出プロファイルターゲット (別売) をテスト撮影します。露出プロファイルターゲットに均一に光が当たるようにライティングし、カメラの露出モードはM (マニュアル) で標準露出値より±7EVの撮影データを取得します。このとき、L-758シリーズの入射、反射測定時の標準露出値を記録しておきます。

USBケーブルで露出計と接続してデータを転送

Data Transfer Softwareで設定したデータを露出計本体のUSB接続端子にUSBケーブルを接続し、データの転送をします。露出計とPCが接続されると、露出計の液晶表示がUSBマークのみを表示、PCとの接続をお知らせします。PCからのデータ転送だけではなく、露出計内の設定データを読み込み、保存することも可能です。



Data Transfer Software 動作環境

	Windows	Macintosh
対象OS	Windows 2000※1 Windows XP※2	Mac OS 10.3以上
機種	USBインターフェイスを標準装備したパソコン※3	USBインターフェイスを標準装備したMacintosh
CPU	Pentium III以降のCPU 1Ghz以上	Power PC G4以降のCPU 1Ghz以上
RAM	256MB以上 (512MB以上を推奨)	256MB以上 (512MB以上を推奨)
ハードディスクの空き容量	100MB以上	100MB以上
ディスプレイ	解像度:1024×768、色深度:16bit以上	解像度:1024×768、色深度:16bit以上

※1 Professional Edition SP4以降、Windows2000 Serverでは動作保証しておりません。
 ※2 Home Edition/Professional Edition SP1以降。
 ※3 以下の点にご注意ください。
 ・OSがインストールされていることが必要です。
 ・パソコンの機種/構成により動作しない場合があります。
 ・アップグレードしたOS、増設したUSBインターフェイス、自作PC、ショップ製PC、エミュレーター環境 (Virtual PC等) では動作保証しておりません。
 ・USBハブ経由での接続は動作保証しておりません。
 ・ソフトウェアのインストール時にCD-ROM読み込み可能なドライブが必要です。

※Microsoft/Windowsまたはその他の、マイクロソフト製品の名称及び製品名は米国Microsoft Corporationの商標または登録商標です。
 ※Apple/Macintosh/PowerMacintosh/Mac OSは米国及びその他の国で登録されているApple Computer, Inc.の登録商標です。
 ※Pentiumは米国インテル社の商標です。
 ※その他の製品名や会社名は、一般的にその会社の登録商標または商標です。